

高橋 慶吉
法学研究科・教授

[研究]

令和5年度には主として、基盤研究(c)「台湾海峡危機と日米同盟」に関する研究に取り組んだ。夏休みにアメリカで資料の調査・収集を行い、帰国後には資料の整理・分析を行った。

この研究に付随して、最近の東アジア情勢の分析を行い、短い英文の評論を執筆し、発表した。

また、アメリカ大統領図書館に関する本(共著)をまとめ、出版した。加えて、9月の外交・安全保障調査研究事業費補助金(総合事業)・分科会「自由・民主主義の動揺と再編」において、本の内容に関する発表を行った。

[教育]

担当授業は例年どおりで、変化はない。ただし、全学教育推進機構で担当している「国際社会における法と政治」の講義内容は全面的に改めた。従来は日米関係史について講義をしていたが、令和5年度の授業は最近のアメリカ内政の混乱とそれが世界に及ぼすインパクトについて考察するものにした。

また、法学部の「外交史」の授業では、特別企画として、自衛隊の講演会を行った。法学会のイベントとして位置づけたこともあって、多くの参加者を得ることができた。

[管理運営]

大学院の教務委員長を務めた。令和5年度の大きな課題として、英語カリキュラムの問題があったが、2回のワーキンググループのミーティングを通してその大枠を決め、法学研究科のHP上でJapanese Lawを試験科目として新設することについて発表をすることができた。

また、グローバル日本学教育研究拠点の運営委員として、「グローバル日本学ユニット」(オナー大学院プログラム)の立ち上げに関わった。

加えて、青雲会の学内幹事として、幹事会に出席するとともに、学生支援室との共催で将来のキャリアについて考える座談会を開催した。

[社会貢献]

9月に雲雀丘学園高校で、国際政治に関する授業を行った。授業タイトルは、「歴史と地理から考える日本の安全」である。